

2025年3月期 第1四半期 決算説明会

ウシオ電機株式会社
2024年8月5日

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved

*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。

*売上高は外部顧客向け。営業利益率は、外部顧客向け売上高に対する比率を記載しております。



ウシオ電機、代表取締役社長の朝日です。

本日ウェブサイトにて開示した決算資料にもとづき、
2025年3月期 第1四半期決算の内容をご説明します。

■ 2024年度 1Q実績

- ・減収減益も、一時的なコスト発生を除けば社内計画に対し上振れ
- ・事業の取捨選択の取り組みが寄与。将来への先行・開発投資は計画通り推移

■ 2024年度 通期業績予想

- ・不透明な環境を注視し、現時点で業績予想は据え置く
- ・露光装置は下期以降の販売拡大に向け進捗

■ 自社株投資の買付状況

- ・約20%の買い付けが完了し順調に進捗

本日、お伝えしたいことをご説明します。

第1四半期の業績は、減収減益となりましたが、一時的な棚卸資産評価損の計上を除けば、円安効果を含め社内計画を上回る結果となりました。事業の取捨選択の取り組みが寄与しました。将来に向けた先行投資及び開発投資は計画通りに推移しています。

通期業績予想は、案件の流動性や為替動向など、引き続き注視が必要な環境があり、現時点では据え置きます。

なお、露光装置は、下期案件の受注も概ね確定し、販売拡大に向け順調に進捗していますが、検収のタイミングなど注視してまいります。

5月にリリースした自社株投資300億円は、7月31日現在で買付が約20%まで進み順調です。

まずは、第1四半期の業績についてご説明します。

(スライド4ページへ)

I. 2024年度 1 Q業績概要

II. 2024年度 通期業績予想

III. 新成長戦略の進捗

IV. 参考資料

売上高

375億円

前年同期比 : 17億円減 (▲4.4%)

- 半導体市況悪化影響の長期化で、Industrial Process事業は減収
- ハリウッドストライキの影響を受けるも、円安効果で、Visual Imaging事業は横ばい

営業利益

3億円

前年同期比 : 17億円減 (▲83.3%)

- 減収による減益
- 販管費(新成長戦略に基づく先行投資及び人件費)の増加による減益

親会社株主に帰属する
四半期純利益

2億円

前年同期比 : 14億円減 (▲83.4%)

- 【営業外収支】為替差益 3億円 (2023年度 1 Q : - 億円)
- 【特別利益】投資有価証券売却益 - 億円 (2023年度 1 Q: 3 億円)

業績サマリーです。

売上高は、減収となりました。

これは、半導体市況悪化の影響が長期化し、関連する設備投資の先送りの影響から、インダストリアルプロセス事業が減収したためです。

なお、ビジュアルイメージング事業は、ハリウッドストライキの影響によりシネマ分野で販売が減少も、円安効果により横ばいとなりました。

営業利益は、減益となりました。

減収による減益に加え、販管費の増加が主な減益要因です。

販管費の主な増加は、新成長戦略に基づく先行投資及び人件費です。

四半期純利益は、営業外収支で円安による為替差益が拡大。一方、特別利益の投資有価証券売却益が減少したことで、減益となりました。

続いて、営業利益の増減内容を、ステップチャートでご説明します。

(スライド 6 ページへ)

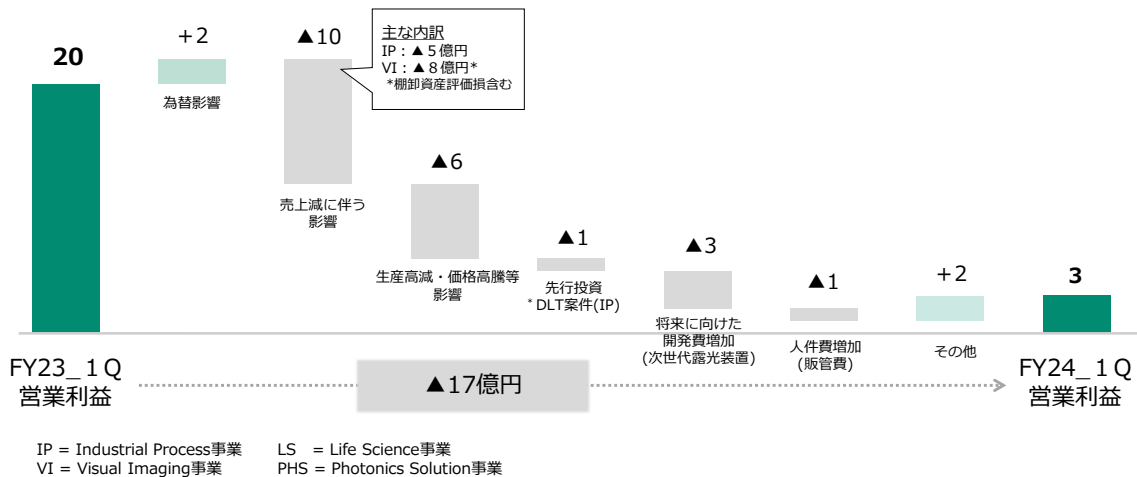
2024年度 1 Q : 財務ハイライト



単位：億円		2023年度 1Q実績	2024年度 1Q実績	前年同期比	
				増減額	増減率
売上高		392	375	▲17	▲4.4%
営業利益		20	3	▲17	▲83.3%
営業利益率		5.2%	0.9%	▲4.3P	-
経常利益		28	14	▲13	▲48.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益		17	2	▲14	▲83.4%
EPS（円）		15.36	2.92	▲12.44	▲81.0%
為替レート（円）	USD	136	155	+19	-
	EUR	148	167	+19	-

2024年度 1 Q : 営業利益 増減分析(前年同期比)

単位 : 億円



* DLT : デジタルリソグラフィ技術のこと。以降のページ同様

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved

6

17億円減益の主な内訳です。

円安の為替効果による増益があったものの、事業面で売上減少。また、将来に向けた投資拡大及び関連する人件費の増加影響で減益となりました。

詳しくは、セグメント別の業績でご説明します。

(スライド 8 ページへ)

2024年度 1 Q : セグメント別業績



単位：億円		2023年度 1 Q実績	2024年度 1 Q実績	前年同期比	
				増減額	増減率
Industrial Process	売上高	174	155	▲18	▲10.8%
	営業利益 (営業利益率)	22 (12.9%)	10 (6.7%)	▲11 (▲6.1P)	▲53.3% -
Visual Imaging	売上高	176	175	▲0	▲0.4%
	営業利益 (営業利益率)	6 (3.5%)	▲4 (▲2.7%)	▲10 (▲6.2P)	- -
Life Science	売上高	13	15	+1	+11.3%
	営業利益 (営業利益率)	▲4 (▲32.7%)	▲1 (▲11.1%)	+2 (+21.6P)	- -
Photonics Solution	売上高	25	25	+0	+1.9%
	営業利益 (営業利益率)	▲3 (▲12.9%)	▲0 (▲2.3%)	+2 (+10.6P)	- -
その他	売上高	2	2	+0	+2.1%
	営業利益 (営業利益率)	▲0 (▲22.9%)	0 (1.1%)	+0 (+24.0P)	- -
連結合計	売上高	392	375	▲17	▲4.4%
	営業利益 (営業利益率)	20 (5.2%)	3 (0.9%)	▲17 (▲4.3P)	▲83.3% -

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved

2024年度 1 Q : Industrial Process事業



単位：億円	2023年度 1 Q実績	2024年度 1 Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	174	155	▲18	▲10.8%
営業利益	22	10	▲11	▲53.3%
営業利益率	12.9%	6.7%	▲6.1P	-
サブセグメント別売上高				
露光用ランプ	33	37	+4	+13.4% ③
OA用ランプ	13	14	+1	+9.4%
光学機器用ランプ	27	27	▲0	▲0.2%
光源事業合計	74	80	+5	+7.6%
露光装置	54	38	▲15	▲28.5% ①
光学装置その他	46	37	▲9	▲19.7% ②
光学装置事業合計	100	75	▲24	▲24.4%
Industrial Process事業合計	174	155	▲18	▲10.8%

■売上高：前年同期比 18億円減収

- 設備投資の抑制・延期の影響により、装置の販売が減少 ①
- EUVマスク検査用光源の稼働減少でメンテナンス収入が減少 ②
- 設置済み装置の稼働が堅調に推移し、販売が増加 ③

■営業利益：前年同期比 11億円減益

- 減収による減益
- 露光装置で将来の成長に向けた先行投資(開発投資)を拡大

インダストリアルプロセス事業は減収減益となりました。

半導体市況は、緩やかな回復基調のなか稼働が堅調にあり、かつ円安効果で露光用ランプは販売が増加しました。
一方、露光装置は、投資抑制や延期の影響が継続しており、販売は減少しました。
また、EUVマスク検査用光源は、コストダウンの取り組みによる利益率改善が進んだものの、稼働の減少により、メンテナンス収入が減少しました。

営業利益は、露光装置などの減収及び将来の成長に向けた開発投資を拡大したこと
から減益となりました。

2024年度 1 Q : Visual Imaging事業



単位：億円	2023年度 1 Q実績	2024年度 1 Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	176	175	▲0	▲0.4%
営業利益	6	▲4	▲10	-
営業利益率	3.5%	▲2.7%	▲6.2P	-
サブセグメント別売上高				
プロジェクター用ランプ	30	28	▲2	▲8.0% ②
照明用ランプ	7	9	+1	+18.1%
光源事業合計	38	37	▲1	▲2.7%
シネマ	67	59	▲7	▲11.4% ①
一般映像	69	78	+8	+11.6% ③
映像装置事業合計	137	137	+0	+0.3%
Visual Imaging事業合計	176	175	▲0	▲0.4%

■売上高：前年同期比 0億円減収

- ストライキ影響等による投資意欲減退でDCP*販売が減少 ①
- 映画館の稼働低下により、シネマ向けで販売が減少 ②
- 映像演出ニーズの高まりで設備投資が堅調 ③
- 円安効果で増収

■営業利益：前年同期比 10億円減益

- 保守パーツの棚卸資産評価損を計上
- 販管費が増加(主に人件費)

* DCP：デジタルシネマプロジェクター

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved

9

ビジュアルイメージング事業は減収減益となりました。

シネマ分野は、ハリウッドストライキ影響を受け、映画館での投資意欲減退が生じ、デジタルシネマプロジェクターの販売が減少。
映画館の稼働も低下し、シネマ用ランプの販売が減少しました。
一方、一般映像分野では映像演出ニーズが底堅く推移。また、円安効果もあり全体での売上は横ばいで推移しました。

営業利益は、生産終了品に係る保守サービスパーツの一時的な棚卸資産評価損を計上したこと。また、米国での計画的賃上げにより減益となりました。

2024年度 1 Q : Life Science事業 /Photonics Solution事業

Life Science事業

単位：億円	2023年度 1 Q実績	2024年度 1 Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	13	15	+1	+11.3%
営業利益	▲4	▲1	+2	-
営業利益率	▲32.7%	▲11.1%	+21.6P	-

■売上高：前年同期比 1 億円増収

- ナトリウムランプの販売が増加

■営業利益：前年同期比 2 億円増益

- 棚卸資産評価損計上済みランプの販売により利益率が改善

- 投資抑制を継続

Photonics Solution事業

単位：億円	2023年度 1 Q実績	2024年度 1 Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	25	25	+0	+1.9%
営業利益	▲3	▲0	+2	-
営業利益率	▲12.9%	▲2.3%	+10.6P	-

■売上高：前年同期比 0 億円増収

- 半導体関連向けの販売が増加

■営業利益：前年同期比 2 億円増益

- 投資抑制効果で増益

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved 10

ライフサイエンス事業は増収増益となりました。

過去に棚卸資産評価損を計上した植物育成向けナトリウムランプの販売が増加し、利益率改善に貢献しました。

フォトリソソリューション事業は、増収増益となりました。

半導体市況の回復により半導体向けの販売が増加。また、投資の選択的実行により販管費を抑制したことから増益となりました。

2024年度 通期業績予想に対する 1 Q進捗率(セグメント別)

単位：億円		2024年度 予想 前回より変更なし	2024年度 1 Q実績	予想に対する 1 Q進捗率	2Q以降の見通し
Industrial Process	売上高	790	155	19.7%	- 露光装置は、FY24下期より販売が増加し、再び成長軌道へ - DLT案件の先行投資及び次世代露光装置の開発投資は計画通り。下期に向け増加の見込み
	営業利益 (営業利益率)	35 (4.4%)	10 (6.7%)	30.0% -	
Visual Imaging	売上高	780	175	22.5%	- ストライキ影響でシネマ向けランプは横ばいの見込み - DCPIは季節性もあり2Q以降販売拡大。一般映像は案件増加の見込み - 経営効率化の取り組み継続
	営業利益 (営業利益率)	45 (5.8%)	▲4 (▲2.7%)	-	
Life Science	売上高	50	15	30.9%	2Q以降は売上・利益ともに横ばいで推移見込み - 投資抑制の取り組みは継続
	営業利益 (営業利益率)	▲20 (▲40.0%)	▲1 (▲11.1%)	8.6% -	
Photonics Solution	売上高	115	25	22.2%	- 売上は横ばいで推移見込み - 開発投資は増加の見込み
	営業利益 (営業利益率)	▲10 (▲8.7%)	▲0 (▲2.3%)	5.9% -	
その他	売上高	15	2	19.2%	
	営業利益 (営業利益率)	0 (0.0%)	0 (1.1%)	-	
連結合計	売上高	1,750	375	21.5%	
	営業利益 (営業利益率)	50 (2.9%)	3 (0.9%)	6.9% -	

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved 11

第1四半期の進捗状況を踏まえ、セグメント別の第2四半期以降の見通しについてご説明します。

インダストリアルプロセス事業は、下期より計画通り露光装置販売が増加し、再び成長軌道となる見込みです。また、次期以降は、デジタルリソグラフィ装置が新たにラインアップに加わることで、更なる成長拡大を目指します。

一方、将来を見据えた投資については、計画通り実行する見込みであり、第2四半期以降の増加を見込んでいます。これにより、当年度の利益率改善は限定的となる見込みですが、次期以降の成長拡大に向け、着実に取り組みを進めてまいります。

ビジュアルイメージング事業は、第2四半期以降、シネマ分野で季節性によりデジタルシネマプロジェクターの販売が増加。一般映像分野も案件が積み上がりつつあり、売上、利益ともに増加していく見込みです。

第1四半期は赤字スタートとなりましたが、第2四半期以降の回復と経営効率化の取り組みにより計画値達成を目指します。

ライフサイエンス事業及びフォトニクスソリューション事業は、記載のとおりです。

第1四半期業績の説明は以上となります。

なお、通期業績見通しの詳しい内容については、次の章にて掲載していますが、前回より変更がないため、本日の説明は割愛させていただきます。

続いて、株主還元についてご説明します。

(スライド20ページへ)

I. 2024年度 1 Q業績概要

II. 2024年度 通期業績予想

III. 新成長戦略の進捗

IV. 参考資料

露光装置の販売減少と将来に向けた先行投資拡大で減収減益を見込む（2025年度以降は業績回復を見込む*）

売上高

- **1,750億円（前年同期比 44億円減収）**
 - Industrial Process事業（前年同期比 31億円減収）
 - ・露光装置の販売減少及びEUV光源のメンテナンス収入減少を見込む
 - Visual Imaging事業（前年同期比 25億円減収）
 - ・一般映像機器で需要堅調も、シネマ分野中心に投資意欲減退や稼働減少影響で減収を見込む

*詳細は、新成長戦略を参照ください
https://www.ushio.co.jp/jp/ir/library/brief_note/

営業利益

- **50億円（前年同期比 79億円減益）**
 - Industrial Process事業（前年同期比 73億円減益）
 - ・減収影響に加え、一時的な露光装置の生産高減少の影響及び先行投資拡大により減益を見込む
 - Visual Imaging事業（前年同期比 13億円減益）
 - ・減収に伴う減益を見込む

当期純利益

- **45億円*（前年同期比 62億円減益）**

*2024年度中に一定の政策保有株式などの投資有価証券の売却実行を計画していますが、それに伴う業績への影響については予想に織り込んでおりません

為替前提

- **USD : 145円、EUR : 155円**

(参考) 為替感応度：1円変動による影響額(通期)【対USD】売上高：約10.0億円、営業利益：約1.2億円

2024年度 通期業績予想：財務ハイライト

前回より変更なし

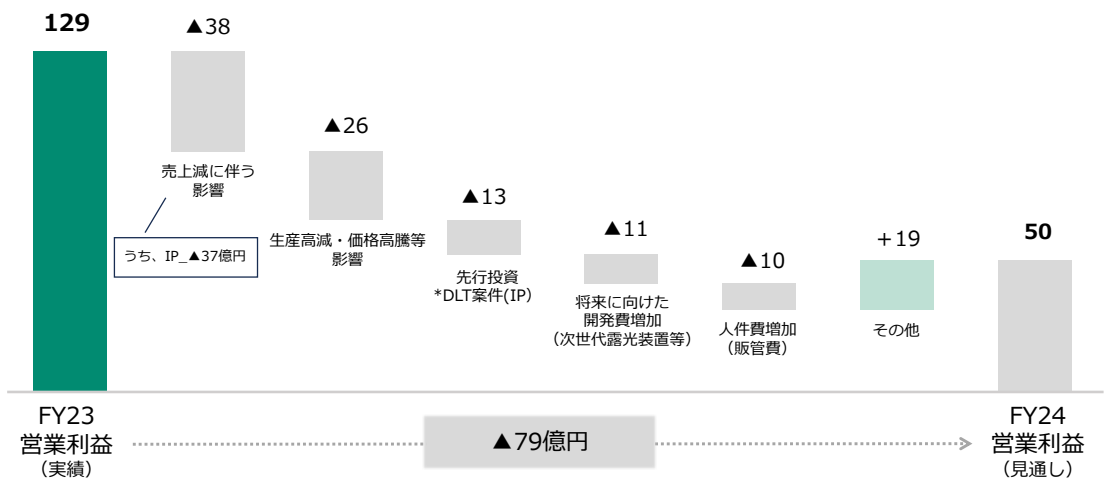


単位：億円	2023年度 実績	2024年度 予想	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	1,794	1,750	▲44	▲2.5%
営業利益	129	50	▲79	▲61.5%
営業利益率	7.2%	2.9%	▲4.4P	-
経常利益	160	65	▲95	▲59.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	107	45	▲62	▲58.3%
EPS（円）	97.22	46.79	▲50.43	▲51.9%
ROE	4.5%	2.0%	▲2.5P	-
年間配当（円）	50	70	+20	-
為替レート（円）	USD	144	+1	-
	EUR	156	▲1	-

(参考) 為替感応度：1円変動による影響額(通期)【対USD】売上高：約10.0億円、営業利益：約1.2億円

2024年度 通期業績予想：営業利益増減分析（前年同期比）

前回より変更なし



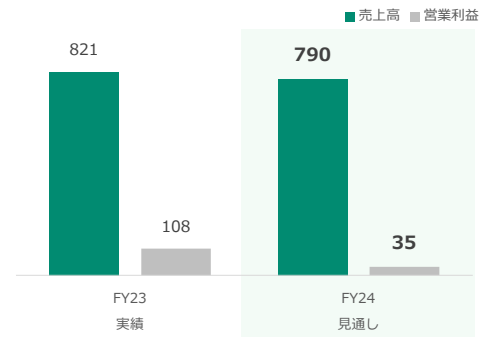
* DLT : デジタルリソグラフィ技術のこと

2024年度 通期業績予想：セグメント別業績

前回より変更なし

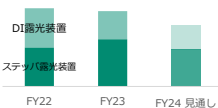


単位：億円		2023年度 実績	2024年度 予想	前年同期比	
				増減額	増減率
Industrial Process	売上高	821	790	▲31	▲3.8%
	営業利益 (営業利益率)	108 (13.2%)	35 (4.4%)	▲73 (▲8.8P)	▲67.8% -
Visual Imaging	売上高	805	780	▲25	▲3.1%
	営業利益 (営業利益率)	58 (7.3%)	45 (5.8%)	▲13 (▲1.5P)	▲23.6% -
Life Science	売上高	52	50	▲2	▲4.1%
	営業利益 (営業利益率)	▲23 (▲44.7%)	▲20 (▲40.0%)	+3 (+4.7P)	- -
Photonics Solution	売上高	102	115	+12	+12.3%
	営業利益 (営業利益率)	▲15 (▲14.8%)	▲10 (▲8.7%)	+5 (+6.1P)	- -
その他	売上高	13	15	+1	+14.9%
	営業利益 (営業利益率)	1 (10.4%)	0 (0.0%)	▲1 (▲10.4P)	- -
連結合計	売上高	1,794	1,750	▲44	▲2.5%
	営業利益 (営業利益率)	129 (7.2%)	50 (2.9%)	▲79 (▲4.4P)	▲61.5% -

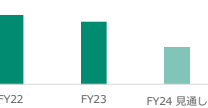


【参考情報（売上高推移）】

半導体アドバンスドパッケージ向け
露光装置



EUVリソグラフィマスク検査用
EUV光源



■事業環境想定

低調な需要が継続も、徐々に回復の兆しが見えつつある

- 半導体市場は、2024年後半から徐々に回復を見込む
- 半導体アドバンスドパッケージ市場は、投資低調が続くも、2025年以降は生成AI関連投資に牽引され徐々に回復し需要拡大の見込み
- FPD市場は、需要の底は脱するも低調な需要の継続を見込む

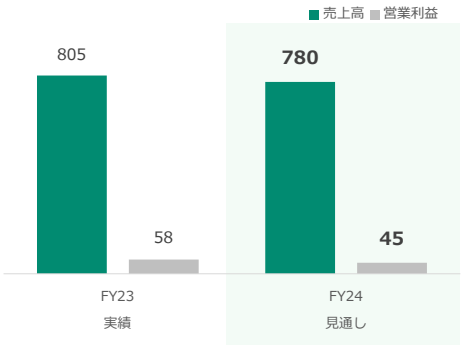
■売上高：前年同期比 31億円減収

- 露光用ランプは、徐々に稼働が回復し増収を見込む
- 露光装置は、投資先送りの影響で減収を見込む
- EUVマスク検査用光源は、メンテナンス収入の減少を見込む

■営業利益：前年同期比 73億円減益

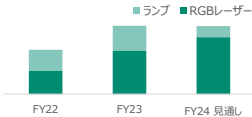
- 将来の成長に必要な先行投資(開発投資)を拡大
→ デジタルリソグラフィ装置*を含む次世代露光装置、EUV光源等
- 露光装置で一時的な生産高の減少に伴う稼働率低下による損失を見込む

*アプライドマテリアルズ社との業務提携によるDLT(デジタルリソグラフィ技術)搭載のDI露光装置のこと

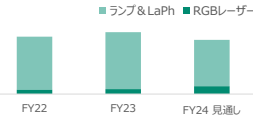


【参考情報（台数推移）】

デジタルシネマプロジェクター(DCP)



一般映像向けプロジェクター



■事業環境想定

需要は堅調も、中国経済悪化やストライキ影響を注視

シネマ市場

- ハリウッドストライキの影響で映画館の一時的な稼働減を想定
- DCP置き換えニーズはあるものの、投資意欲は低調な見込み

一般映像市場

- 大規模演出や最先端の映像演出ニーズの高まりにより需要は堅調も、中国経済悪化の影響は注視

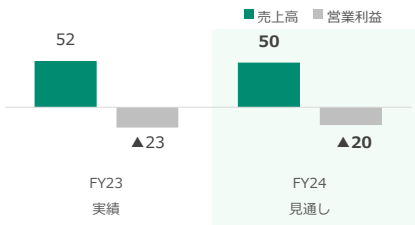
■売上高：前年同期比 25億円減収

- シネマ(映像装置)は、設備投資意欲の減退により減収を見込む
- 一般映像機器は、堅調な需要により増収を見込む
- プロジェクター用ランプは、映画館の稼働減少影響や固体光源化で減収を見込む

■営業利益：前年同期比 13億円減益

- 減収に伴う減益
- プロジェクター用ランプで原材料高による影響を見込む

Life Science事業



■事業環境想定

メディカル機器等で安定的な需要が継続

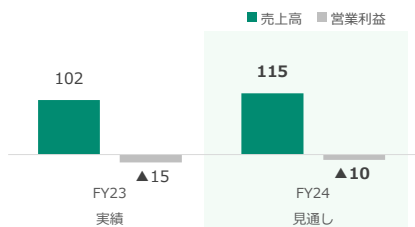
■売上高 : 前年同期比 2 億円減収

- 環境衛生向け及びメディカル機器で横ばいを見込む

■営業利益 : 前年同期比 3 億円増益

- 新規事業案件の絞り込み等を進めるとともに販管費等の抑制継続

Photonics Solution事業



■事業環境想定

産業用途でエネルギー効率向上ニーズ等によるフォトニクス需要が継続

■売上高 : 前年同期比 12 億円増収

- 半導体や産業用センサー市場などで販売増加を見込む

■営業利益 : 前年同期比 5 億円増益

- 増収に加え、開発投資の絞り込みにより増益を見込む

1株当たり
期末配当額

【配当方針】

安定的な配当

FY24～FY26: 下限配当70円/年を設定

2024年度 **70円/年** (増配予定)

自社株投資

【自己株式取得の方針】

機動的に実施

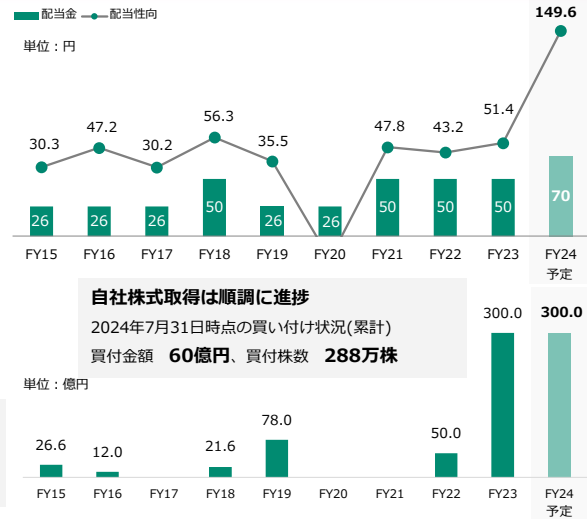
FY24～FY26: 累計500～600億円の自社株投資を
実施予定

2024年5月14日リリース

取得期間: 2024年5月24日～ 2025年4月30日

買付予定金額 : **300億円(上限)**

買付予定株数 : **2,000万株(上限)**



今年度の配当は、期初計画通り1株当たり70円とする予定です。新成長戦略の方針に則り、20円の増配となります。

また、自社株投資は、上限300億円の買い付けに対し、7月31日時点で、累計60億円、288万株となり、進捗率は約20%と順調です。詳しくは、8月2日付けのリリースをご確認ください。

最後に、5月に公表した新成長戦略の進捗についてご説明します。

(スライド22ページへ)

I. 2024年度 1Q業績概要

II. 2024年度 通期業績予想

III. 新成長戦略の進捗

IV. 参考資料

新成長戦略の進捗について

●半導体アドバンスドパッケージ市場での成長拡大

新製品(デジタルリソグラフィ装置)の次期(FY25)業績貢献に向け、順調に進捗

- ・ 市場での評価獲得及び商談等が順調に進捗
- ・ 販売に向けた社内グループ横断プロジェクトチームを発足し活動加速
- ・ 量産に向けた生産体制の構築は計画通り進捗

次世代露光装置(ステッパ及びDI)の商談及び開発は順調に進捗

●事業ポートフォリオ変革の実行

Phase 1 (FY24~26)での遂行を目指し、対象となる事業について具体的なアクションを開始

- ・ 開発テーマに対する評価基準を見直し、新規事業創出の案件絞り込みを実施
- ・ 不採算や低収益事業については、サブセグメント単位で今後の事業性及び優位性の厳格な評価を実施
- ・ 注力事業へリソースシフト開始

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved 22

新成長戦略の主な施策である「半導体アドバンスドパッケージ市場での成長拡大」と「事業ポートフォリオ変革の実行」の進捗をご説明します。

「半導体アドバンスドパッケージ分野での成長拡大」については、アプライドマテリアルズ社との業務提携後、社内でグループ横断プロジェクトチームを発足し活動を加速してきました。

既に主要なお客様での評価も進み、反応も良好と認識しており、今後の引き合い及び受注に向け順調に進捗しています。

量産に向けた生産体制の準備も計画通りに進んでいます。

このように、新たにラインアップするデジタルリソグラフィ装置の次期2025年度からの業績貢献に向け順調に進捗しています。

また、ステッパやダイレクトイメージングの次世代露光装置も商談及び開発が順調に進捗しています。

「事業ポートフォリオ変革の実行」については、不採算や低収益事業のテコ入れを行うべく、対象となる事業で具体的なアクションを取り始めています。

開発テーマに対する評価基準を見直し、新規事業の創出において絞り込みを実施し、メリハリのある開発投資の実現を進めています。

また、事業をサブセグメント単位まで落とし込み、それぞれの今後の事業性、優位性の厳格な評価を実施しています。

これらの実行により、注力事業へのリソースシフトも進めています。

今後もこれらの取り組みを加速することで、新成長戦略で掲げた目標達成をより確実にしてまいります。

本日の私からのご説明は、以上となります。

I. 2024年度 1Q業績概要

II. 2024年度 通期業績予想

III. 新成長戦略の進捗

IV. 参考資料

事業セグメントと主な製品



事業セグメント	主要事業・製品	製品例					
Industrial Process	光源： 露光用ランプ、OA用ランプ、光学機器用ランプ他 装置： 露光装置、キュア装置、EUVマスク検査用光源、保守メンテナンスサービス他	 露光用ランプ	 OA用ランプ	 ステッパ露光装置	 ダイレクトイメージング露光装置	 (提供：TNO) EUVマスク検査用EUV光源	
Visual Imaging	光源： シネマ用ランプ、データプロジェクター用ランプ他 装置： デジタルシネマプロジェクター、一般映像向けプロジェクター、映像関連機器、保守メンテナンスサービス他	 シネマ用ランプ	 データプロジェクター用ランプ	 デジタルシネマプロジェクター	 一般映像用プロジェクター	 ディスプレイLEDウォール	 映像周辺機器
Life Science	光源：「Care222®」搭載製品他 装置：紫外線治療機器他	 抗ウイルス・除菌技術「Care222®」搭載製品	 紫外線治療機器「セラビームシリーズ」				
Photonics Solution	光源：固体光源	 固体光源 (LD/LED)	 レーザーモジュール				

四半期推移《損益》



単位：億円		2023年度				2024年度	前年同期比	
		1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	増減額	増減率
売上高		392	457	475	469	375	▲17	▲4.4%
営業利益		20	29	52	27	3	▲17	▲83.3%
営業利益率		5.2%	6.4%	11.0%	5.9%	0.9%	▲4.3P	-
経常利益		28	34	63	34	14	▲13	▲48.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益		17	24	44	20	2	▲14	▲83.4%
EPS(円)		15.36	21.65	40.72	20.06	2.92	▲12.44	▲81.0%
為替レート (円)	USD	136	144	149	147	155	+ 19	-
	EUR	148	158	159	160	167	+ 19	-

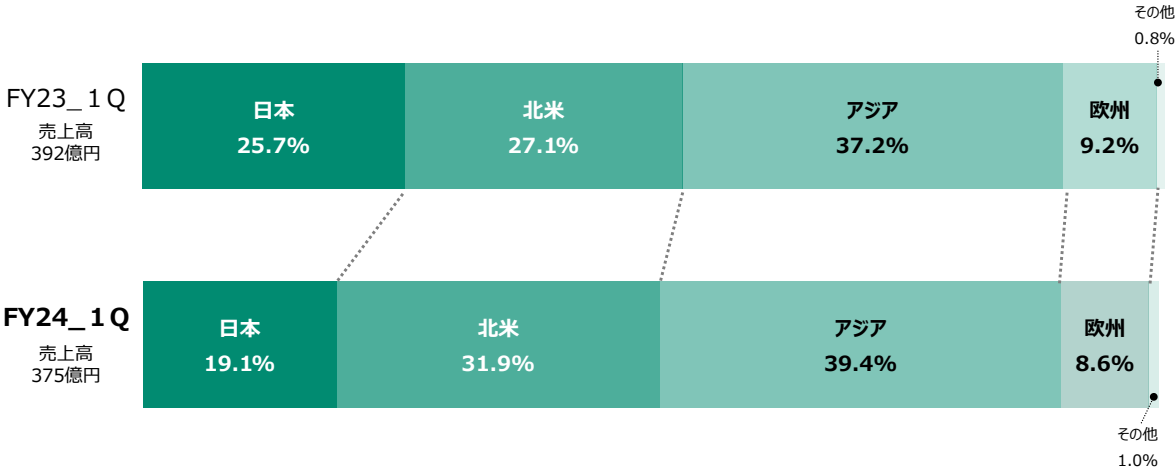
四半期推移《セグメント別損益》



		2023年度				2024年度	前年同期比	
		1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	増減額	増減率
Industrial Process	売上高	174	203	225	217	155	▲18	▲10.8%
	営業利益	22	17	40	28	10	▲11	▲53.3%
	営業利益率	12.9%	8.4%	18.1%	13.1%	6.7%	▲6.1P	-
Visual Imaging	売上高	176	212	203	212	175	▲0	▲0.4%
	営業利益	6	23	15	12	▲4	▲10	-
	営業利益率	3.5%	11.2%	7.8%	6.1%	▲2.7%	▲6.2P	-
Life Science	売上高	13	13	13	11	15	+1	+11.3%
	営業利益	▲4	▲7	▲4	▲6	▲1	+2	-
	営業利益率	▲32.7%	▲57.1%	▲36.1%	▲54.6%	▲11.1%	+21.6P	-
Photonics Solution	売上高	25	25	28	23	25	+0	+1.9%
	営業利益	▲3	▲3	▲1	▲6	▲0	+2	-
	営業利益率	▲12.9%	▲14.9%	▲5.0%	▲28.9%	▲2.3%	+10.6P	-
その他	売上高	2	3	3	3	2	+0	+2.1%
	営業利益	▲0	▲0	1	0	0	+0	-
	営業利益率	▲22.9%	▲16.7%	51.7%	23.5%	1.1%	+24.0P	-
連結合計	売上高	392	457	475	469	375	▲17	▲4.4%
	営業利益	20	29	52	27	3	▲17	▲83.3%
	営業利益率	5.2%	6.4%	11.0%	5.9%	0.9%	▲4.3P	-

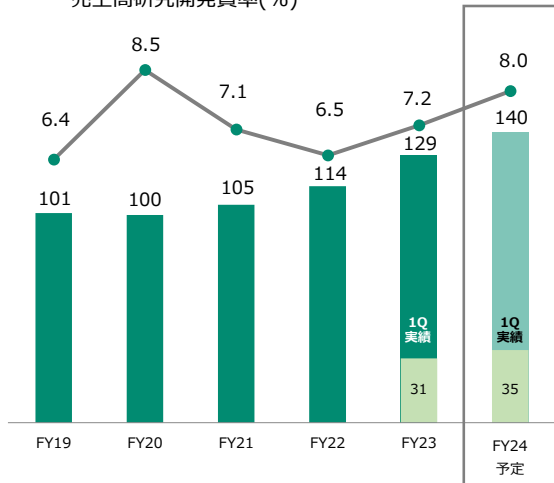
Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved

地域別売上高比率

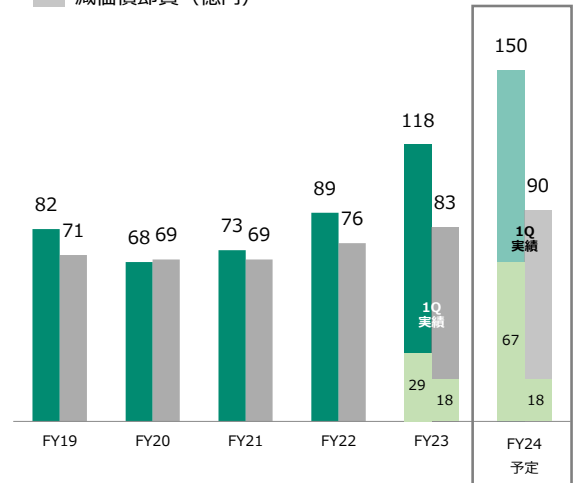


研究開発費／設備投資額・減価償却費

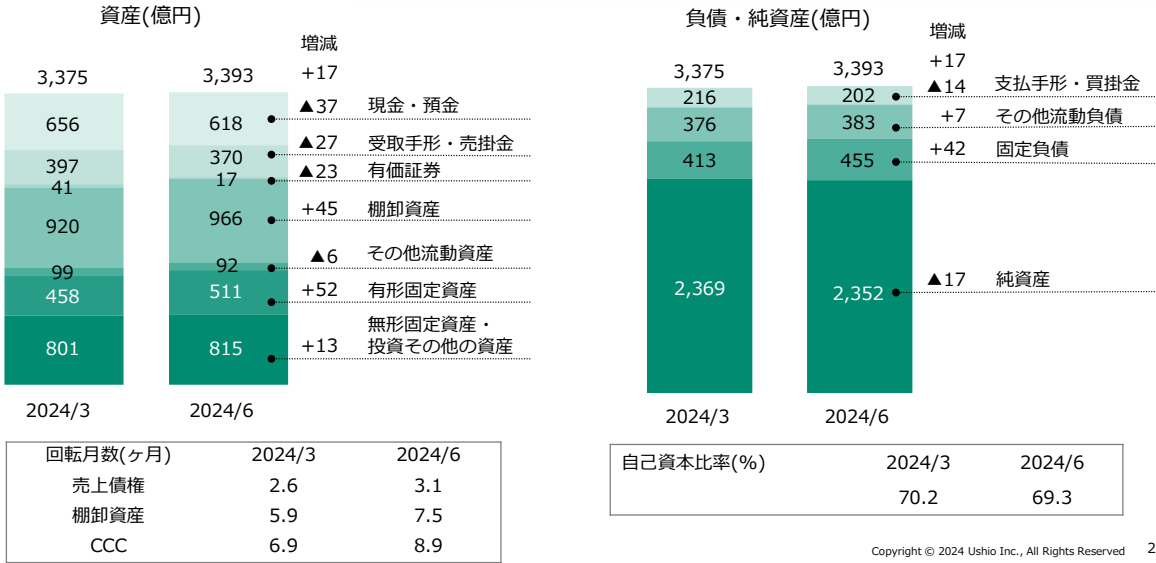
■ 研究開発費（億円）
— 売上高研究開発費率（%）



■ 設備投資額（億円）
■ 減価償却費（億円）

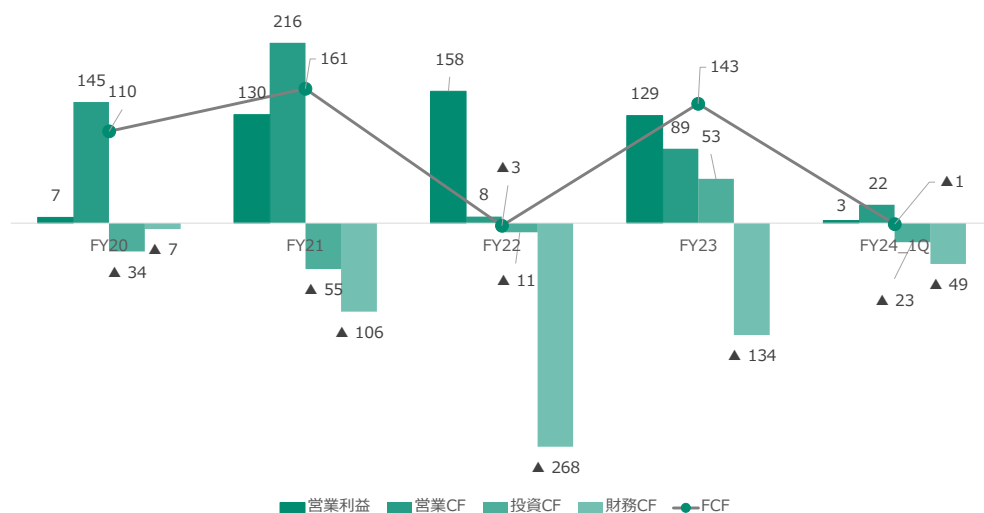


貸借対照表



キャッシュフロー推移

単位：億円



AI	Artificial Intelligence	人工知能
DCP	Digital Cinema Projector	デジタル・シネマ・プロジェクター
DI	Direct Imaging	マスクを使わず、直接描画する露光方式
DLT	Digital Lithography Technology	デジタルリソグラフィ技術
EUV	Extreme Ultraviolet Radiation	極端紫外放射（極紫外放射）
FPD	Flat Panel Display	フラット・パネル・ディスプレイ
OA	Office Automation	オフィス内の事務作業の自動化や効率化を図ること
半導体アドバンスドパッケージ		チップレットをはじめとする半導体の2xD、3D化に対応する最先端のパッケージ分野

IRサイト及びIRメール配信サービスのお知らせ

- 当社オフィシャルWebサイト「投資家情報」では、様々なIR情報を掲載しております。
- 法定開示や適時開示、その他IR情報等、ウシオのIRニュースを開示後適時にメールでお届けできるように**IRメール配信サービス**を導入しております。IRサイトからご登録いただきますようお願いいたします。

🖥️ オフィシャルWebサイトもご活用ください

 投資家情報 	 統合報告書 (Ushio Report 2023) 	 サステナビリティ 
---	---	---

IRメール
配信サービス
ご登録はこちら



「大和インターネットIR表彰 2023」
「優秀賞」受賞

<免責事項>

本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞

ウシオ電機株式会社

IR室

(03) 5657-1007

ir@ushio.co.jp

<http://www.ushio.co.jp/jp/ir>